

また歌いましょう

「あなたたちは先生の自慢です。」

3月31日、私を変えてくれた先生はその言葉と涙を残して私たちの小学校を去って行った。

私は小学校4年生のときに合唱部に入った。そのとき私に自分を変えようという気持ちはなく、ただ友達が入ったから入っただけであった。私は気持ちを口にしたり人前に出て話をしようとしたりすると嫌われたらどうしようと不安になり、口が動かなくなってしまう。そのため、みんなと歌うことも得意ではなく、辞めたいと思うこともあった。

そんなとき、私を支えてくださったのは先生だった。先生は一人一人が楽しく歌えるようにたくさんの工夫をしてくださり、何よりも先生が何気なく口にされた言葉が心に響いた。

「他人は自分の気持ちなんてわからない。だからこそ言葉で、歌で表現するんだ。」

当たり前のことをおっしゃっただけなのかもしれないが、私はその言葉のおかげで目の前が明るくなった。そして自分の気持ちを相手に伝えるためにたくさん話をしたり、歌ったりするようになった。

6年生になり副部長に任命された。以前の私ならきっと自分に自信がなくて部長に仕事を任せてばかりいたと思う。しかし私は変わった。自分の仕事は自分でこなし、自分の意見をしっかり言えるようになった。私はそんな自分が好きだった。

この3年間で色々なことがあった。沖縄、佐賀、熊本での九州大会出場、先生が骨折をされて、先生の旦那さんに指揮をしてもらったコンクール。思い出はどれも先生のおかげで楽しくなった。私は先生にとっても感謝している。また一緒に歌える日まで、よく仰ったように「勇気」と「自信」を持って歩み続けよう。

辻 花成子
(中学生)